

第3学年 社会科の実践

1. 単元名 わたしのまち みんなのまち
～小単元 学校の周り①～

2. 単元目標

- 三新塔地域の地形や土地利用、交通の広がり、木次駅・三新塔交流センターなどの公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに関心をもち、地域の特色について意欲的に調べようとしている。【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 三新塔地域の様子から学習問題を見出し、場所による違い、地域の特色を考え、適切に表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】
- 三新塔地域の様子について、観察・調査して調べたことを白地図などにまとめることができる。【観察・資料活用の技能】
- 三新塔地域の様子は、場所によって違いがあることやそれぞれの場所の特色を理解することができる。【社会的事象についての知識・理解】

3. 学習活動について

(1) 児童について

(一部省略)

ya

本校は平成26年4月に、約20キロメートル離れた温泉小学校と統合した。温泉地区の児童は本学級に3名おり、スクールバスで通学してきている。そのため、学校の周りの地域や、本単元で学習する三新塔地域（三日市・新町・塔の村地区の略称）を歩いた経験が少なく、三新塔地域についてよく知らないと思われる。

これまでの生活科では、学校の周りの地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所について調べている。自分たちが暮らす地域の良さについて気付いたり、公共物や公共施設を利用し、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用したりする学習をしてきている。しかし、これらの学習は、自分と身近な人々、社会とのかかわりに気づき、自立への基礎を養うことをねらいとしたものであった。そのため、学校の周りの様子を、地形や土地利用、交通の広がり、公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などの視点でとらえるまでには至っていない。さらに、訪問した店や公共施設などの場所を絵地図で表すことはしてきているが、白地図や地図記号についての学習は本単元が初めてである。

2年生までは、デジタルカメラを使って写真を撮ることを経験してきている。3年生になってから全員で、タブレット端末の電源、カメラ機能の操作、写真機能の使い方について学習した。家庭に自分が使用できるタブレット端末がある児童もいる。また、自分が使用できるタブレット端末がない場合でも、保護者の持っているスマートフォン等を操作することがあることから、タブレット端末の操作に慣れている児童がほとんどである。

(2) 単元について

本単元は、学習指導要領第3学年の内容を受けて設定した。

(1) 身近な地域や市区町村の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。

(イ) 観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。

イ 次のような思考力・判断力・表現力等を身に付けること。

(ア) 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。

加えて、四方位や主な地図記号について理解し活用することも学習していく。

本単元は、児童にとって初めて社会科を学習する単元である。また、後の「市のようす」の学習にもつながっていくだけでなく、以後の社会科の学習の基盤となるものである。生活科で習得した観察・調査の方法を活用しながら、社会的事象を実際に観察したり、聞き取りなどの調査を行ったりして、具体的、実感的に理解する単元である。考えていく活動を重視していく。また、後述するICT活用も取り入れながら、思考力や表現力を育てることもねらいとしている。

(3) 指導に当たって

研究の視点(1)

【① 教材・学習課題との出会いの場の工夫】

本単元への興味・関心をもたせるために、課題提示の場を工夫する。本単元の導入では、「1回目の町探検」と称して、地域の歴史に詳しい方に三新塔の町を案内してもらう。このことによって、地域の魅力的な人に出会い、町を見つめる視点を獲得させたい。さらに、1回目の町探検の振り返りや学習の様子の写真から、「三日市についてもっと調べてみたい。」「なぜ三日市の町は家と家がかくっついているのだろう。」などという意見を取り上げ、2回目の町探検でより詳しく観察・調査してみたいという意欲につなげていきたい。

【② 学習課題、学習の流れの明確化】

教室に、単元「学校の周り」の大きな学習の流れを掲示し、単元のゴールを明確にすることで、児童が学習のめあてを自覚して取り組めるようにしていきたい。学習計画は模造紙に書いて掲示し、いつでも見られるようにしておく。学習の途中でも、今取り組んでいることが次の学習へどうつながっていくかが分かり、安心して、また、めあてを意識しながら学習できると考える。

本単元は、三新塔地域の様子を観察・調査して調べたことを白地図にまとめ、絵地図を作成すること、地図記号の有用性に気付くことをねらいとしている。さらに、単元の最後には、保護者や1回目の町探検でお世話になった地域の歴史に詳しい方に調べたことを発表する活動も設定する。このことにより、「三新塔地域の様子をわかりやすく伝えたい」という視点をもって学習できるようにしていきたい。

また、児童が見通しをもって一時間の学習に取り組むことができるように、授業の始めに本時の学習の流れを確認する。さらにこの流れを黒板に示しておくことで、学習のどの段階にいるのか授業中に把握できるようにしていきたい。

研究の視点（２）

【①個人思考を深める手立ての工夫】

タブレット端末で前時までの板書や見学・活動の様子を撮影しておく。これを必要に応じて壁掛けプロジェクターで映し出すことで、思考が停滞している児童が考えをもちやすいようにする。

【②ペア学習やグループ学習など、思いや考えを表現する場の工夫（思考過程の共有化）】

１回目の町探検は、学級全員で地域の歴史に詳しい方に話を聞くが、２回目の町探検は、特に調べたい場所別（木次駅周辺、三日市・新町、木次公園）にチームで観察・調査を行う。チームの中で、さらに細かく３人のグループを作り、タブレット端末で写真を撮ったり、インタビューをしたりする。チーム、グループは学習のねらいが達成できるよう、調べたい場所や対人関係などを考慮して、指導者が編成する。これらの工夫により、全員が主体的に観察・調査し、思いや考えを表現できるようにしたい。

研究の視点（３）

【①情報収集・整理分析場面でのタブレット端末の利用】

タブレット端末で前時までの板書や見学・活動の様子を撮影しておく。これを授業導入時での前時までの振り返りや、思考時の既習事項の確認に活用することで、これまでの学習内容を視覚的に振り返ることができるようにする。また、必要に応じて学習の手掛かりになる写真や地図等を壁掛けプロジェクターで映し出し、思考が停滞している児童が考えをもちやすいようにする。

また、２回目の町探検の際、児童がグループに１台のタブレット端末で三新塔の地形や土地利用、交通の広がり、木次駅・三新塔交流センターなど公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布等を撮影できるようにする。この際に撮った写真は、後述するアプリ「ロイロノート・スクール」と関連させて活用する。

【②グループ学習での共同学習ツールとしてのタブレット端末の活用】

本単元では、ロイロノート・スクールを用いることで、児童がグループ学習に用いるタブレット端末の写真を、指導者のタブレット端末で一括管理できるようにする。このことで、指導者が各グループの進捗状況を把握したり、指導者のタブレット端末と各グループのタブレット端末で写真をやり取りしたりできるようにする。また、児童がタブレット端末で写真に線や文字を書き込んだり消したりといった操作を行うことで、それぞれの思いや考えを表現し、話し合いを深める手立てとする。

【③発表場面で、根拠資料としてのタブレット端末の利用】

単元の最後の、保護者や１回目の町探検でお世話になった地域の歴史に詳しい方に調べたことを発表する活動において、絵地図を用いての説明に合わせ、ロイロノート・スクールで作成した写真

資料等を壁掛けプロジェクターで映し出す。

4. 本単元で身に付けたい力

三新塔地域の特色を調べるという学習課題を解決する中で、地域の特色について収集した情報を取捨選択し、まとめる力。

5. キャリア教育の視点

友達と協力して課題を解決する。(課題対応能力)

6. 指導計画と評価計画(全17時間・本時12/17)

次	時	主な学習活動	評価				主な評価規準(評価方法)
			関	思	技	知	
Ⅰ つかむ	1	教科書にある町の様子を表したイラストを見て、どんな人がいて何をしているかを考える。	○				関身近な地域の様子に関心をもち、どんなものがあり、どんな人がいて何をしているかを考えようとしている(行動観察・ノート)
	2	学校の周りの様子を絵地図に表し、学校の周りの様子について調べるという学習問題をつくる。	○				関身近な地域に関心をもち、意欲的に調べている。(行動観察・ノート)
	3	学校の周りの白地図の見方を知り、地図上の方角と教室から見た方角について学習する。	○			○	関白地図の見方や、方位に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる(行動観察・ノート) 知白地図の見方や、方位の表し方を理解している。(行動観察・ノート)
	4 5	三新塔に1回目の探検に行き、 ・木次駅 ・塔の石 ・木次公園 について地域の方から説明を聞く。	○				関三新塔地域の様子、特色やよさを考えようとしている。(行動観察・ワークシート)
	6 7	1回目の町探検をふりかえり、2回目の町探検の視点を整理する。 班ごとに観察・調査の計画を立てる。		○			思三新塔地域について、適切な観察・調査計画を立てている。(行動観察・ノート)
	8 9 10 11	三新塔に町探検に行き、観察・調査したことをタブレット端末で写真に撮ったり、メモしたりする。			○		技三新塔地域の様子について観察・調査して必要な情報を集めている。(行動観察・タブレット端末・ワークシート)
Ⅲ まとめる	12 (本時)	グループで観察・調査した場所の特色をわかりやすく伝えるという視点をもって写真を選んだり、説明を考えたりする		○			思グループで観察・調査した場所の特色をわかりやすく伝えるという視点をもって写真を選んだり、説明を考えたりすることができる。(行動観察・タブレット端末・ワークシート)
	13	グループごとに選んだ観察・調査したことをわかりやすく伝えるための資料の中で一番絵地図にふさわしいものをチームで		○			思観察・調査したことをわかりやすく伝えるための資料について、理由を説明したり話したりしてい

		話し合う。					る。(行動観察・タブレット端末)
14		観察・調査したことを絵地図にまとめ、三新塔地域の特色について考える。		○			☒ 観察・調査したことをわかりやすく伝えるための資料をもとに、三新塔地域の特色について考えている。(行動観察・ノート)
15		観察・調査してまとめた絵地図を、地図記号で表現する。			○		☒ 観察・調査してまとめた絵地図を、地図記号で表現している。(行動観察・ノート)
16		三新塔地域の様子は、場所によってどのように違うかを航空写真や絵地図などを手掛かりにして調べ、話し合う。				○	☒ 三新塔地域の様子は場所によって違いがあることを理解している。(行動観察・ノート)
17		観察・調査したことをまとめた絵地図を、保護者や地域の歴史に詳しい方に発表する。	○				☒ 観察・調査したことを、保護者や地域の歴史に詳しい方に対して意欲的に発表している。(行動観察・ノート)

7. 本時の学習

(1) 目標

グループで観察・調査した場所の特色をわかりやすく伝えるという視点をもって写真を選んだり、説明を考えたりすることができる。(思考・判断・表現)

(2) 展開

	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援(○) 評価(【 】) ☒ ICT活用
つかむ	1. 前時までのふりかえりをする。	○タブレット端末で記録しておいた前時までの学習の様子を壁掛けプロジェクターに投映することで、前時までの学習の流れを想起しやすくする。(タブレット端末、壁掛けプロジェクター)
考える	2. 本時のめあてと、学習の流れを確認する。 グループで調べた場所の ようすがよくわかる写真を えらんで説明しよう	○町探検で歩いた場所を白地図と対応させ、軌跡を白地図に書き込むことで、白地図と探検に行った場所をつなげて考えられるようにする。 ○めあてや学習の流れを確認し、本時の学習に見通しをもつことができるようにする。 ○記号や言葉を使って写真に書き込みをした学習を想起させることで、めあてを理解させ、場所の様子をわかりやすく伝えるという視点をしっかりもたせる。
広げる・深める	3. ロイロノート・スクールを使って、三新塔地域の特色をわかりやすく表現するための写真を選び、説明するための記号や言葉を書き加える。 木すき駅周辺 ・駅の前は広がっている ・ちゅう車場、バスていや自てん車小いやがある ・たくさんの人が木次駅を利用している	○タブレット端末での操作にとまどっている場合には、教師が、グループを回って操作方法を伝える。 ○写真を選んだり、理由を説明したりしにくいグループのために、話し合いが進んでいるグループでどんなまとめ方をしているか紹介する。

ま と め る	三日市・新町周辺 ・三日市交りゅうセンターがあり、たくさんの人が利用している ・家と家がくっついてたっている。ちゅう車場は家の一かいにあったり、きょうどうちゅう車場で家と少しはなれた場所にあったりする 木次公園周辺 ・三日市・新町よりも高い場所にある ・記ねんひやサイレンとうなど、昔からあるものが多い ・てんぼう台から木次の町を見ると、三日市・新町の家のならび方と、下くま谷の家のならび方がちがう 4. 本時の学習をふりかえる。 グループでしゃしんをえらんでせつ明を考えると、ばしよのようすがたんけんしたときよりもよくわかる。 5. 次時の学習の見通しをもつ。 ・ほかのグループのしゃしんも見てみたい。 ・絵地図にどのしゃしんを使うとわかりやすいかな。	○タブレット端末の画像が見やすいように書画カメラで写す。 (ロイロノート・スクール、タブレット端末、書画カメラ、壁掛けプロジェクター) ○選んだ写真の場所と、その写真を選んだ理由、グループで学習して気づいたこと・思ったことをふりかえりカードに書くことで、本時の学習をふりかえることができるようにする。 ○各チーム1グループずつ発表させることで、他のグループの写真の選び方や説明の仕方の工夫がわかるようにする。 ○ふりかえりカードやタブレット端末の画像が見やすいように書画カメラで写す。(ロイロノート・スクール、タブレット端末、書画カメラ、壁掛けプロジェクター) 【思考・判断・表現】グループで観察・調査した場所の特色をわかりやすく伝えるという視点をもって写真を選んだり、説明を考えたりすることができる。(行動観察・タブレット端末・ワークシート) ○次時は、絵地図に貼る写真をチームで決めることを伝える。

(3) 評価

評価の観点	十分満足と思われる児童の姿	おおむね満足と思われる児童の姿	支援が必要と思われる児童への手立て
思考・判断・表現	進んでグループで観察・調査した場所の特色をわかりやすく伝えるという視点をもって写真を選んだり、説明を考えたりすることができる。	友達と協力してグループで観察・調査した場所の特色をわかりやすく伝えるという視点をもって写真を選んだり、説明を考えたりすることができる。	写真を選んだり、選んだ理由を説明したりすることができにくい児童やグループには、他の児童やグループの写真の選び方や説明の仕方を紹介し、考えがもちやすいようにする。

(4) 研究の視点

タブレット端末やロイロノート・スクールを用いたことは、本時のねらいを達成するうえで有効であったか。

8. 指導の実際と考察

(1) 学習課題との出会いの場の工夫 研究の視点(1) - ①

本単元の導入として、「1回目の町探検」と称し、地域の歴史に詳しい方に三新塔の町を案内してもらった。地域講師の幼少期の木次町の様子や「サイレン塔」の歴史、「塔の石」の伝承などを聞いたことで、児童は地域の魅力的な人に出会った驚きを感じつつ、本小単元への興味・関心を高めることができた。【図1】

さらに、1回目の町探検の振り返りや学習の様子の写真から、「三日市についてもっと調べてみたい。」「木次駅のまわりはどうなっているのだろう。」「なぜ三日市の町は家と家がくっついているのだろう。」「サイレン塔のまわりはどうなっているのだろう。」などの疑問を取り上げて、事象ごとに分類・整理した。このこと



図1 1回目の町探検の様子

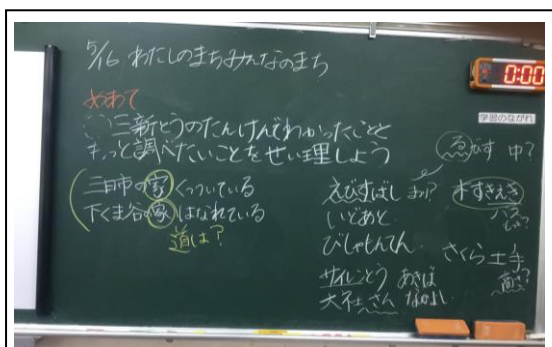


図2 1回目の町探検の振り返りの板書

により児童は、これまでただの景色としてとらえていた三新塔の町を、地形や土地利用、交通の広がり、木次駅・三新塔交流センターなどの公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布(以下、地形や土地利用等とする)などから見る視点を獲得することができた。また、児童の「もう一度詳しく調べてみたい」の気持ちを引き出した後、2回目の町探検に行くことを伝えた。【図2】このことにより、より詳しく観察・調査しようという児童の意欲を高めることができたと考える。

(2) 学習の流れの明確化 研究の視点(1) - ②

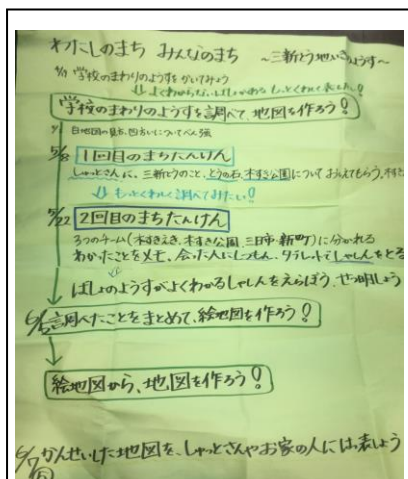


図3 掲示した学習計画

本小単元「学校の周り①」のゴールは、三新塔地域の様子を観察・調査して調べたことを白地図にまとめ、絵地図を作成することとした。さらに、小単元の最後には、保護者や1回目の町探検でお世話になった地域の歴史に詳しい方に、調べたことを発表する活動も設定した。

小単元のゴールを明確にし、児童がそれぞれの学習のめあてを意識して取り組めるように学習計画を模造紙に書いて掲示した。

【図3】

この学習計画を児童に提示するのは1回目の町探検の振り返りの後としたが、町探検を1回だけにした学習計画を提示し、ゴールまでにどのような学習を行っていくかを児童が考えていくような学習展開にすれば、2回目の探検の必要性が児童の側から生まれたかもしれない。学習計画の提示方法については、今後も考えていく必要がある。

学習計画を掲示したことにより、児童は今取り組んでいることが次の学習へとどうつながっていくかが分かり、安心して、めあてを意識しながら学習していくことができたと考える。また、学習計画を見ながら「しゅっとさんやお家の人に発表する日はいつだっけ。」と、次の学習を楽しみにする姿も見られた。加えて、学習した日付を書き込んでいったことで、学級の学習の足跡にもなり、「3年生になって、社会をがんばっているんだ。」という児童の自己肯定感にもつながったと考えられる。

学習計画だけでなく、三新塔地域の白地図も教室に掲示した。学習が進むにつれて白地図が絵地図になり、どんどん完成していく様子は、学習計画に書き込んだ日付とセットでの学級の学習の足跡となり、「次の学習が楽しみだ。」という児童の学習意欲につながったと思う。小単元の最後に絵地図が完成した際には、「やったー！」という児童の歓声もあがった。【図4】【図5】



図4 完成した絵地図



図5 完成した絵地図 拡大版

(3) グループ学習における、思いや考えを表現する場の工夫 研究の視点(2) — ②

(2回目の町探検でのグループ学習)

2回目の町探検は、指導者が地形や土地利用に特色が見られ、観察・調査に適していると考えた場所(木次駅周辺、三日市・新町、木次公園)の3チームに分かれて行った。また、チームの中でさらに細かく3人のグループを作り、「タブレット端末操作」「質問」「メモ」の役割分担を決めた。チーム、グループの構成は、学習のねらいが達成できるよう、児童の希望や対人関係なども考慮して、指導者が決めた。

「タブレット端末操作」については、後述する「情報収集ツールとしてのタブレット端末」に関連して、学級全員で総合的な学習の時間に事前に学習した。

「質問」については、指導者が作成した「町たんけん しつもんカード」を用いて、学級全員で質問の仕方を練習する時間を設けた。【図6】

本探検における質問とは、町探検で出会った人にお話を伺うことだけでなく、建物やお店の中の写真を撮る際の許可を求めることも含んでいる。「メモ」

町たんけん しつもんカード

①入りの口で・出会ったとき

- ・こんにちは、本すぎ小学校の3年生です。
- ・町たんけんに来ました。お話を聞かせてもらってもいいですか。
- ⇒ いいですよ、と言われたら … しつもん OK。②へすすむ
- ⇒ ごめんなさい、と言われたら … ありがとうございます。と言ってたちさる

②中へ入って・立ちながら

- ・しつれいします。わたしは、〇〇〇〇〇〇です。
- (一人ずつみょうずと名前を言う。)
- ・よろしくおねがいします。
- (いっしょにおじぎをする)

③たてもの・お店の中のしゃしんをとるとき

- ・しゃしんをとらせてもらってもいいですか。
- ⇒ いいですよ、といわれたら … 〇〇のしゃしんをとります。と言ってしゃしんをとる
- ⇒ ごめんなさい、と言われたら … わかりました。と言ってやめる

④しつもんをするとき

- ・しつもんをしてもいいですか。
- (「知りたいこと」に書いていないことも、聞きたいと思ったことがあれば聞いてみましょう。)

⑤しつもんが終わって帰るとき

- ・どうもありがとうございました。
- ・さようなら。(あいさつといっしょにおじぎをする)

図6 町たんけん しつもんカード

については、国語科「インタビューをしてメモをとろう」の単元とも関連させて、学級全員でメモをとる学習を行った。

これらの取組により、児童は、「この場所について調べたい。」という意識をもって観察・調査することができた。さらに、グループの中での役割を、「3年生になってから学習したことを使うぞ。」という気持ちでとらえることにつながり、観察・調査することや表現することへの意欲を高めることができたと考える。

（４）学習の効果を高めるためのICT活用 研究の視点（３）

（情報収集ツールとしてのタブレット端末）

２回目の町探検の際、グループに１台のタブレット端末を渡し、写真撮影ができるようにした。タブレット端末での写真撮影については、総合的な学習の時間と関連させて、カメラアプリの起動、ズーム機能の使い方、シャッターボタンの使い方、アルバムアプリの起動と画像の削除について学習した。

２回目の町探検において児童がタブレット端末で写真撮影をしたことは、地形や土地利用の観点から三新塔の町を見ることにつながった。また、デジタルカメラよりも画面が大きく、グループの３人で一緒に画面を見ながら撮影の角度やズームの加減をすることができたこともよかった。さらに、後述するアプリ「ロイロノート・スクール」との連動も容易であった。

ただ、児童が撮影した中には、あまりに近景にフォーカスしすぎており、地形や土地利用の観点で地域を見ることに適していない写真もあった。これは、地形や土地利用についてわかりやすく説明するための写真であるという認識を児童にうまくもたせることができなかったことや、「アップ」と「ルーズ」を児童が使い分けられることができるようにする指導が十分でなかったことによると考える。今後は、何のために撮影する写真であるかという認識を児童にはっきりもたせることや、その目的を達成するために、ズーム機能や、場合によっては連写機能、HDR機能（明るさ調整機能）などを効果的に使い分けられることができるようにする指導が必要である。

（共同学習ツールとしてのタブレット端末）

本小単元では、「ロイロノート・スクール」という授業支援アプリを用いて学習を進めた。本アプリは、児童が操作しているタブレット端末の写真を、指導者のタブレット端末で一括管理できるものである。本アプリを用いたことで、指導者は各グループの進捗状況を把握し、地形や土地利用等についての児童の理解度に合わせて授業展開を考えることができた。【図７】



図７ グループでのタブレット端末操作



さらに、本時では、2回目の町探検で調べた場所の地形や土地利用の特色を説明するために、児童が3人グループで、タッチペンを用いて本アプリ上の写真に線や文字を書き込んだ。【図8】

このことは、児童の思いや考えを線や文字にして表現し、グループで話し合ったり、学級で思いや考えを共有したりするために有効であった。しかし、児童の表現した思いや考えが、必ずしも本時のねらいに沿っていないものもあった。これは、前述した（情報収集ツールとしてのタブレット端末）にもあるように、地形や土地利用についてわかりやすく説明するための写真であるという認識を児童にうまくもたせることができなかったことに起因すると考える。今後は、地形や土地利用についての理解を深めるため

にいかにタブレット端末を使う場面を設定するかが課題である。

（5）成果と今後の課題

今回の実践によって、学習課題との出会いの場を工夫したり、学習計画や白地図を活用したりすることで、児童の学習への関心を高めることができることがわかった。さらに、グループでの役割分担やアプリ「ロイロノート・スクール」を効果的に取り入れることで、児童がそれぞれの思いや考えを表現することができることも明らかになった。しかし、本小単元で学習するのは、地形や土地利用の特色であった。地形や土地利用の特色についてわかりやすく説明するための写真を選ぶという学習のねらいを児童にうまく伝えることができなかったことは、今回の実践の大きな課題である。社会科学習のねらいを達成するための学習のめあてのもたせ方について、今後も実践を通して研究を深めていきたい。